

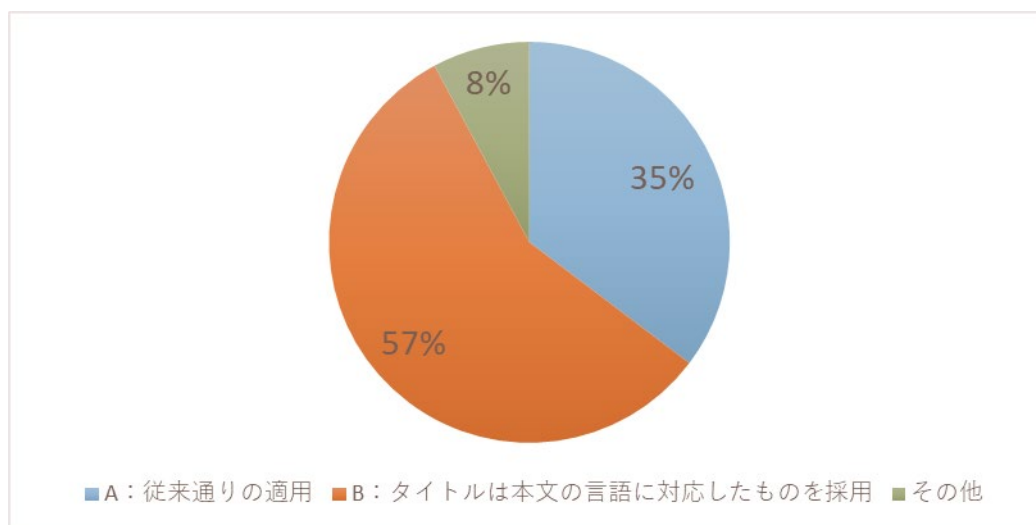
「TRC MARC ニュース 第 32 号」でうかがったご意見の集計結果報告

「TRC MARC ニュース 第 32 号」で、検討中だった「外国語で書かれている図書について」と「個人名の読み違い記述形について」の 2 点についてご意見をうかがいました。たくさんのご意見をお寄せいただきましたことに厚く御礼申し上げます。いただいたご意見の集計結果と、それぞれの案に対するコメントをまとめましたのでご確認ください。

1. 外国語で書かれている図書について

集計結果

外国語で書かれている図書	館数	割合
A 案：従来通り	18	35%
B 案：適用を変更し、タイトルは本文の言語に対応したものを採用する	29	57%
その他（ご意見併記、未回答他）	4	8%



★上記を選択した理由を教えてください。（自由記述）

※以下、ご記入いただいたコメントの一部を掲載しております

A 案

- ・ 日本語タイトルで検索できるから
- ・ 日本語タイトルが読みで検索できる
- ・ この本の英語版が読みたいという検索の仕方が多いため、日本語タイトルでの検索ができないと不便であるため。

- ・ 見慣れている。検索しやすい。
- ・ B のカタカナ読みの表記統一が難しい
- ・ B 案で遡及更新されないのであれば従来通りで良いと思いました。
- ・ 従来の MARC との整合性が取れないことや、純然たる洋書との区別がつきづらいため

B 案

- ・ 日本語タイトルだと、本文が外国語表記であることが分かりづらい
- ・ 本文の言語と本タイトルの言語が一致していないと図書が探しにくい
- ・ NCR2018 の規定通り、タイトルは本文の言語に対応したものを採用した方がテキストの言語が分かりやすく良いと考えます。
- ・ B 案のほうが、利用者に誤解を与えないため。
- ・ 外国語の図書はまず外国語の題名で聞かれることが多そうだからです。
- ・ 検索のしやすさ
- ・ MARC をみてパッと英語版だと分かる。日本語タイトルも漢字形で探せるのでそこまで不便ではないと感じる。
- ・ 並列タイトル等で日本語タイトルと本文中の言語の表記があれば検索に対応できる。
- ・ 著作の典拠コントロールが開始されるなら、利用者が棚へ行き本を探す際に言語どおりのタイトルが親切。
- ・ 英語絵本のデータを英語に直して登録していることがあるので
- ・ 並列タイトルにヨミが入力できないことは、ローカル書誌に追記することで対応可能。
- ・ 注記に入る「本文は英語」は、OPAC 上では目立たず、データと図書本体を結びつけるのは難しい。本文の言語に対応したマークを望みます

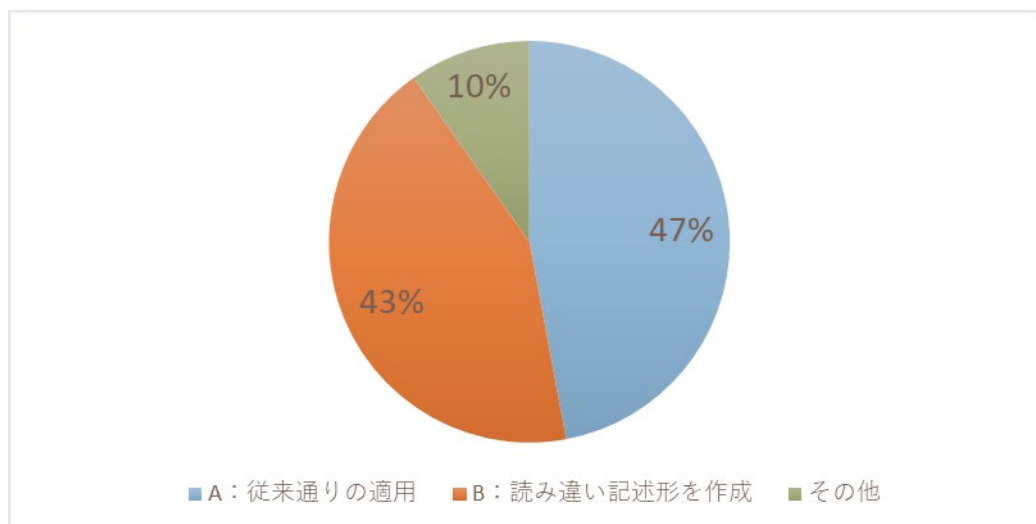
その他のご意見・ご要望

- ・ 並列タイトルも日本語になるので、可能であればカタカナ形を持たせてほしい
- ・ A、B いずれにせよ日本語タイトル・ヨミ・外国語タイトルは入れてほしい。
- ・ A 案 B 案ともタイトルに本文の言語タイトルと日本語版を並べて表記し読みを入れるとどちらからも引っかかるのでは？

2. 個人名の読み違い記述形について

集計結果

個人名の読み違い記述形	館数	割合
A 案：従来通り	24	47%
B 案：適用を変更し、読み違い記述形を作成	22	43%
その他（ご意見併記、未回答他）	5	10%



★上記を選択した理由を教えてください。（自由記述）

※以下、ご記入いただいたコメントの一部を掲載しております

A 案

- ・ 全作品が検索できる方が良い
- ・ 読みで検索すれば著者の全作品が検索可能である。案内の際はすべてのタイトルに気づく。
- ・ B 案のデメリット（検索した読み以外の著書に気づくことができない）は業務に支障がでるから。
- ・ 正しい読みで著作を全て確認できる方がよい。B 案のデメリットがこわい。
- ・ 統一された読みから当該著者の全作品を検索できる点が便利のため。
- ・ 網羅的に検索するためには現行の適用がいい
- ・ B 案を適用して典拠 OFF でもヒットするより今まで通りの適用が分かりやすい
- ・ 一般利用者向けには B 案の方が良さそうに思えるが、MARC としての利用や運用上、典拠コントロールの存在を意識しやすい方が望ましいため
- ・ 典拠を使う条件付ではあっても、全作品検索可能が必須。同一人物で検索できる典拠ファイルは必要。

B 案

- ・ どちらの読みでも検索可能なので。
- ・ 典拠ファイルを通さなくても、読みがある図書を検索可能である方が調べやすくなると思います。
- ・ 統一形が上位で表示されるなら、記述形があってもよいと思う。著作者から典拠検索をする際は、統一形典拠コードから調べるとすべてわかると使う人間が知っておけばよいと思う。
- ・ 図書にある読みは全て MARC に入っている方がよいから。
- ・ 資料検索時、異なる読み方があるという情報が得られた方が良いため。
- ・ 典拠ファイルを購入していないので、様々な読みで検索できる方がよい／図書にあるヨミで検索することが多い。漢字形がわかれば一度は漢字形で検索するので。
- ・ 図書から得られた情報は、該当の書誌に記述があるべきと考えます。B 案のデメリットについては、書誌に併記される別のヨミの記述を確認することで再検索につなぐことができると思います。
- ・ 典拠ファイルを通さないと検索できないよりも 1 回の検索でヒットする方が早くて便利なので。読みが違う可能性を念頭に置いておけば必要な際、典拠検索をすればよいと思うので。
- ・ 図書にある読みで検索できないのはやはり不便であるため

お忙しいなかご協力いただきありがとうございました。

いただいたご意見を参考に決定した適用は「TRC MARC ニュース 第 33 号」44～47 ページでお知らせしております。

